

Ishikawa
Medical
石川県地域医療支援センター 広報誌
WAVE
いしかわ メディカル ウェイヴ

2016
Winter

第16号



石川県地域医療支援センター



研修医 **座談会** 指導医

VS

専門にとらわれず、**とことん経験。**

医療の前に、**人としての感性を!**

医師として、自分の専門分野と初期臨床研修先をどう選ぶかは後の人生を大きく左右します。

研修医2年目の若手医師と、研修医を教育する指導医に、

研修先を選ぶポイントと何を学ぶべきかについて語り合っていました。

Q1. 初期臨床研修先を選ぶ際、何を重視したか？

加畑 ●私は、一度は県外に出てみたい思いもあって県外の医療機関の試験を受けました。でも最終的に自分の出身大学である地元（金沢市）の大学病院を選んだのは、研修について行けなかったり、困った時のフォローに安心感があったからです。また、親が地元で開業しており、家族や知人からも地元に残ってくれたら嬉しいと言われたことも後押しになりました。教育機関としての安心感と、大学病院と市中病院を2年間で経験でき、なおかつ一般的な疾患から難しい症例まで診られると思って最終的に決めました。

川上 ●私も一度は県外に出てみたい気持ちはありましたが、県内の主な臨床研修病院を見学してみて、地元にも良い病院はたくさんあることを知りました。私は耳鼻科に興味があり、

かつ研修先では外科系全体のことが見たいと考えていました。それにはやはり、馴染みのある金沢医科大学病院がいいと思ったのです。いろんな先生のお話を聞き、自分の進みたい方向を考えたくて、最終的に大学病院に残って手術や症例を経験したいと思いました。金沢医科大学病院の耳鼻科は、一般耳鼻科と甲状腺がんや頭頸部がんなどを扱う頭頸部外科に分かれています。私は後者の道に進もうと考えています。

山崎 ●私の場合は実家が京都で、大学が愛媛大学です。研修先は全国どこでもいいと思って北海道から沖縄まで有名な病院をいくつか見学しました。これはと思った病院とはあいにく縁が無く、二次募集で再度、北海道から沖縄までで条件の良さそうなところを探して金沢医療センターに見学に訪れたところ、教育熱心な先生と出会いました。それが教育研修部長の太田先生でした。私は小児科志望で、どんなに忙



加畑 映理子 医師
金沢大学附属病院
研修医 2年次



川上 理 医師
金沢医科大学病院
研修医 2年次



山崎 大輔 医師
国立病院機構金沢医療センター
研修医 2年次



向坂 文治 医師
石川県立中央病院
研修医 2年次



しい時でも笑顔を絶やさない、熱心な先生がおられることに感銘を受けました。その姿勢に共鳴、共感して是非、見習いたいと考えたのがきっかけです。

向坂 ●私は金沢の出身で、一人っ子なので初めから地元に残ろうと決めていました。初期研修先を選ぶにあたっては、いろんな先生から「初期研修の間はできるだけたくさんの方を経験した方が、後々ためになる」と教えられました。石川県立中央病院は、たくさんの方の外来や入院患者さんが来ますし、当直などを含めていろいろ経験できます。とにかく診療科を数多く回って、進むべき進路を決めようと思っています。専門はまだ決めたわけではありませんが、小児と大人の両方を診られる救急医になりたいと考えています。

Q2. 研修中に学んだことは？

山崎 ●私は研修先を大学病院より、市中病院を中心に探しました。結果的に、金沢医療センターとご縁をいただいたわけですが、今、改めて感じるのは、臨床現場では笑顔を絶やさずに患者さんや家族と向き合うことが大事だと思っています。とくに小児科ではそうです。研修に臨む前に、数多くの病院を見学させていただきましたが、忙しかつたりするとなかなか笑顔で患者さんと接することはできません。石川県や金沢市とは何の接点もなかった私が、骨をうずめるつもりで働きたいと思ったのは先生方の笑顔です。

加畑 ●医療の知識や経験は大事ですが、最終的には人と人とのかかわりが重要になってきます。患者さんとのコミュニケーションや、挨拶など、医師である以前に人としての常識が大切だということを改めて実感します。研修1年目のときに、立ったまま患者さんに話かけたら、指導医の先生に「ちゃんと座って話しかけなさい」と教えられました。急いでいるとついおろそかになってしまいますが、人としてのマナー、患者さんに不快な思いをさせずに向き合うことが、とても大事だと改めて感じています。

向坂 ●医師が思っている事と、患者さん側が感じることは必ずしも同じではありません。自分が親身になっているつもりでも、患者さんは「ありがとうございます」「大丈夫です」とある程度以上になると遠慮されることがあります。その時に、どれだけ患者さんの側に歩み寄り、親身になれるか、話し合えるかが大事だと改めて感じます。患者さんからは、研修医か専門医かの区別はなく、何かあれば質問されます。そのときに患者さんの不安をしっかりと聞き、理解して的確に応

えられるように準備をすることが大事だと改めて感じます。

川上 ●治療にもいろいろあって、風邪も「治す」、がんの治療も同じ「治す」です。同じがんでも意味合いが違う「治す」もあります。辛い治療を受けて状態は落ち着いていても、日常生活の質が以前と比べて落ちた。そういう患者さんを診る機会が多くあります。その時に、生活の質を落としてまでこの治療を続けていいのか、しばしば考えさせられます。喉のがんを手術で治療しても、声が出にくく、うまく話しを伝えられなくなるのは治したことになるのか。手術だけではなく、機能を改善する医師をめざしたいと思っています。

Q3. どんな医師になりたいか？

加畑 ●小児科医を目指すのを決めたのはつい最近のことで、父親の影響(小児科の開業医)が大きいです。将来どうなるかはまだわからないですが、父の医院を継ぎたいとの思いはあります。ただ科を決めたとしても、研修の間はいろんな科を回りたいです。専門分野を決めてしまうと視野が狭くなりがちなので、視野を広く持って患者さんと接していける医師になりたいと思います。

川上 ●耳鼻科はやりがいがあって、外来は一日100人単位という忙しいところもあるし、自分がめざす頭頸部外科は入院や手術もあります。大学病院も耳鼻科や頭頸部外科はかなりハードですが、その中でも患者さんがどう思っているかを汲み取って、少しでも力になれるように、そして患者さんに治療を受けて良かったと思われる医師を目指したいと思います。

山崎 ●小児科は自己完結できる場所もあれば、他科との連携が必要なお場所もあります。耳鼻科や皮膚科の先生にお願いする場所もたくさんあります。そういう時に自分だけで抱え込まず、謙虚に「お願いします」と頭を下げられるような医師になりたいと思います。将来的には、診療科の壁を越えて協力しあい初期臨床研修医を指導していけるような、そんな医師になりたいと思っています。

向坂 ●医師であっても、チーム医療の一員であるという目線を持つことが重要だと思います。コメディカル、看護師さん、薬剤師さん、技師さんとしてしっかり協力できる医師です。そのひとつとして、研修医学会などを通じて県内の研修医同士のつながりをしっかり取ることも重要だと思います。患者さんに対しては名医というより、良医を目指して頑張りたいと思います。

指導医からのアドバイス



米谷 充弘 医師

金沢大学附属病院
研修医・専門医総合教育センター
初期臨床研修部門助教

知識や技術より、まずコミュニケーション

当院では各科の専門コースを用意していることから、初期研修医は、ある程度入局先や将来を決めています。1年目は関連病院で勉強し、2年目には志望する診療科の研修に集中し、3年目以降の医師像やまた、自分のキャリアアップのために大学の制度や環境を生かす、そういうスタイルが特徴です。研修医にはそれぞれ年間指導医がつき、その指導医と、研修医が希望する研修先、そして私たちセンターが連携して研修医を指導、教育する形をとっています。

研修医2年目になると「どんな医師になりたいか」目標の先生が決まっている人たちがほとんどなので、5年後自分はこうしたい、尊敬する先生がいる病院に行きたいといった希望を後押しする。それが私たちの役割になります。

研修医の皆さんに期待するのは、知識や技術より、まずコミュニケーション。患者さんにしっかり答えなくてはいけないので、患者さんと仲良くなってほしい。病棟に行って看護師さんともコミュニケーションをとり、患者さんの気持ちにできるだけ近づいてほしい。人とコミュニケーションする力を身に着けた医師になってほしいと思います。



宮澤 克人 医師

金沢医科大学病院
臨床研修センター部長

メンタル面をしっかりサポート

臨床研修センターは直接、研修医を指導することはなく、メンタル面のことやアドバイス、生活指導などの相談が多いです。大学病院は特殊な疾患や難治で稀な症例の診断、治療を要する機会があり、研修医の先生方はいろんな経験ができる場になっています。ただ現実的には、特殊な疾患ばかりではありません。もっと総合診療科に近い、救急でも三次救急ばかりではなく、熱が出たお子さんから高齢者まで地域医療の色彩が強い。いずれにしてもたくさんの症例を体験できるので、学ぶことは多いと思います。

全国的に、初期研修の途中でドロップアウトする研修医も少なからずいます。その約9割がメンタル面の問題や指導医の先生との関係、研修に入る前と後のイメージギャップです。人間ですからウマが合う、合わないはあります。金沢医科大学病院は160人余りの指導医がいます。どうしても合わない場合には、指導医を変わってもらうことも可能です。研修医の先生には、どんな些細なことでも相談いただきたい。医師もチーム医療の一員であり、謙虚に患者さんやチームスタッフと向きあえるドクターになってほしいと思います。



太田 和秀 医師

国立病院機構金沢医療センター
教育研修部長

刺激の与え方で大きく成長する

私は教育研修部長と小児科部長を兼務しています。若い先生方の指導は、ある意味子育てに似ていると感じます。医学部に入って卒業するまでは、お腹の中にいる胎児のようなもの。初期研修の2年間は、3歳未満の幼児期に相当する敏感期で刺激の与え方によっていくらでも変わります。研修医の皆さんには、この敏感期にあたる2年間でいろんなことを学んでほしいと思っています。私が9年前に教育研修部長になった当時は、各科の指導医は「どうせウチの科には来ないだろう」との思いが先に立ち、あまり研修医に関心を示しませんでした。そこで、指導医が研修医に興味を持つよう、いろんな改革をしました。今では指導医は非常に熱心に研修医を教育しています。外科を学ばないまま内科系に行ってしまう医師が増えつつある中で、外科系を必修にしたのも、その改革の一つです。そしてこれは、医師としての成長を考えると、食わず嫌いではいけない、1年後、2年後でなくても5年後、10年後には必ず役に立つ、自分の経験から、そう思っているからでもあります。研修医の皆さんには、2年間で自分の思うところをできるだけ数多く経験してほしいと思っています。

研修医 座談会 VS 指導医

専門にとらわれず、とことん経験。

医療の前に、人としての感性を！



岡田 俊英 医師

石川県立中央病院
副院長

名医ではなく良医をめざしてほしい

石川県立中央病院の指導方針は「名医ではなく、良医を育てよ」。病気を全力で治療するのは当たり前で、病人を治すことを目標にせよということです。患者の目線に立ち、患者さんの気持ちが分かる医師であってほしいと思っています。たとえば、診療中は出来るだけパソコンには向き合わず、患者さんと正対して話しを聞き、診察することを指導しております。パソコンへの入力患者さんが検査等に出向いている間でも十分可能です。このような患者さんと向き合う姿勢から、学べることは多いと思います。当院では毎日、8時30分から当直を行った研修医と指導医により当直中に経験した全症例レビューを行い、指導医は忌憚のない意見を研修医に述べます。厳しい部分もあるかとは思いますが、継続的に行うことで指導医、また研修医自身も研修医の成長を実感できる貴重な場でもあります。研修医には、初期研修の目的の一つに専門領域の選択があることは常に話しています。「あなた自身は小児科志望であっても、あなたを医師にしたいと思った神様は耳鼻科が良いと思っているかも」と。様々な診療科を回って真摯に患者さんと向き合い、努力を続ければ、人生を変えるような出会いがきっとあります。夢を持って邁進して下さい。

石川県医師会による活動支援



齊藤 典才 医師

石川県医師会
理事

石川県医師会では、今年度より研修医の皆さんが企画する諸活動を支援する取組みを始めました。

県内には、規模の大小を含めて臨床研修病院が14か所あります。それぞれ特徴があって、大学病院もあれば地域医療に熱心な病院もあります。しかし現状は、地域の拠点病院など大きな医療機関に研修医が集中する傾向にあります。私たち県医師会は、小さな病院にも情熱を持った指導医の先生はおられるし、地域の健康と命を守っている病院もあるので、そういう病院でも研修を受けていただけるようになると石川県全体の研修医の数が増えると考えています。また、県内で研修している全ての研修医を対象としたメーリングリストを用意し、情報交換をやすくしたことや、他病院の研修医とも交流できる機会を提供することで、研修医が相互に刺激し合い、成長していただければと願っています。1月の石川県研修医学会では、研修医が臨床研修中に経験した症例の発表や懇親会を通して交流します。研修医の皆さんは、いずれ専門の学会に入会し、学会発表や研究発表をしていくと思います。1年目、2年目の先生はまだ経験は浅いですが、そのための予行演習の意味合いもあります。そして、こうした活動を支援している医師会を知っていただき、研修医の皆さんにも入会していただけると有り難いと思います。



第1回いしかわ研修医 合同オリエンテーション

主催 石川県、石川県医師会、石川県臨床研修推進協議会 **開催日** 平成 28 年 4 月 7 日 (木) 金沢東急ホテル



石川県で医師としての第一歩を踏み出す初期臨床研修医を歓迎し、充実した研修を受けていただくため、「第1回いしかわ研修医合同オリエンテーション」を4月7日(木)に開催しました。

当日は4月に県内14の大学病院及び臨床研修病院で採用された初期臨床研修医をはじめ、石川県、石川県医師会、大学病院、臨床研修病院関係者など、総勢約200名が参加しました。

第1部では若手医師にとって必要な知識や今後のキャリア形成についての講義がなされ、第2部では病院ごとに研修医が自己紹介したほか、チーム対抗のクイズ大会などを実施するなど、若手医師同士の絆を深めました。

こうした場がきっかけとなり、研修医同士が自発的に病院の垣根を越え、各々が地域に溶け込みながら、横のつながりを深めていくネットワークが築きあげられることが期待されます。



石川県 臨床研修病院 合同説明会



日時 平成29年 **1月21日(土)**
【10:00～】9:30 受付開始

場所 金沢大学附属病院
外来診療棟 4階

内容 各病院からのプレゼンテーション【宝ホール】
研修プログラムを分かりやすくご紹介します！
【10:05～11:00】

個別相談会【CPDセンター】
プログラム責任者・指導医・研修医と個別に
意見交換ができます！【11:00～13:30】 **昼食付**

参加 申込方法

お申し込みはE-mailをお願いします。
石川県健康福祉部地域医療推進室まで
以下の内容を記載し送信して下さい。

①氏名 ②大学・学年 ③医科大発のバス利用有無

✉ iryujin@pref.ishikawa.lg.jp

申込締切：平成29年 1月19日(木)

金沢医科大学の学生さんもお気軽にご参加下さい。

当日は臨時バスを運行します。

金沢医科大学 ↔ 金沢大学附属病院

9:10 金沢医科大学発

14:00 金沢大学附属病院発

18:30 金沢大学附属病院発



同日開催

昼食を挟み「第1回石川県研修医学会」
にも引き続きご参加ください！

第1回 石川県研修医学会

学会テーマ 『知ろう県内の仲間を！深めよう友情を！
そして高めよう医師としてのスキル』

学会長 向坂 文治 (石川県研修医の会代表)

日時 平成29年1月21日(土) 【14:00～18:00】

会場 金沢大学附属病院
外来診療棟 4階「宝ホール」

基調講演

福井大学救急科・総合診療部 **林 寛之** 先生
「研修医当直御法度」、「Step Beyond Resident」など
研修医必携の書の著者！
NHK「ドクターG」にも何度も出演されています。

演題発表者 石川県内の各病院の初期研修医10名程度

演題テーマ 研修中に経験した興味深い症例報告
※診療科にこだわらず、各病院の研修医が経験した
幅広い症例が提示されます！

参加対象者 初期研修医、医学部1～6年生
医学生への参加申込みは不要です。
参加希望の方は当日会場へお越しください。

お問合せ先 ishikawa.junior.resident@gmail.com

主催：石川県研修医の会
共催：石川県、石川県医師会、石川県病院協会、石川県臨床研修推進協議会
後援：金沢大学附属病院、金沢医科大学病院

参加病院

金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、国立病院機構金沢医療センター、金沢市立病院、城北病院、石川県立中央病院、金沢赤十字病院
地域医療機能推進機構金沢病院、公立松任石川中央病院、浅ノ川総合病院、公立能登総合病院、恵寿総合病院、小松市民病院、芳珠記念病院

主催／石川県、石川県医師会、石川県臨床研修推進協議会

【お問い合わせ】石川県健康福祉部地域医療推進室 TEL.076-225-1449 / FAX.076-225-1434

石川県内の 臨床研修病院のご紹介

金沢大学附属病院

〒920-8641 金沢市宝町 13-1
<http://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/>

問い合わせ先 担当：病院部総務課臨床研修係

TEL (076)265-2058 FAX (076)234-4326
mail: h-soum20@adm.kanazawa-u.ac.jp



メッセージ

当院での初期臨床研修では、「心の触れ合うプログラム」と「研修医自身の手によるプログラム」を重要視して、プライマリ・ケア重視から、専門医養成コース（後期研修）を意識した専門性の高いプログラムまで、当院の各研修科のスペシャリストから学べる多様な基本プログラムを用意しています。

金沢医科大学病院

〒920-0293 河北郡内灘町大学 1-1
<http://www.kanazawa-med.ac.jp>

問い合わせ先 担当：臨床研修センター

TEL (076)286-3511 FAX (076)218-8244
mail: kensyu-j@kanazawa-med.ac.jp



平成 29 年 5 月病院中央棟竣工

メッセージ

プログラムは地域における大学病院の特色を生かした多彩な研修プランを用意し、充実した指導体制と多彩な疾患群での研修が可能です。また、研修修了後は 40 診療科の専門領域の場を保障していますので、是非、当院へ一度お越しいただき、その良さを分かってください。

国立病院機構 金沢医療センター

〒920-8650 金沢市下石引町 1-1
<http://www.kanazawa-hosp.jp>

問い合わせ先 担当：管理課

TEL (076)203-4502 FAX (076)222-2758
mail: kenshu@kinbyou.hosp.go.jp



メッセージ

国立病院機構「高度総合医療施設」として、地域医療に貢献することを使命とし、救急医療、臨床研究、教育研究、医療情報の提供の役割も担い、特徴のある医療の提供に取り組んでいます。病院見学は随時受け付けています。詳細はホームページをご覧ください。

石川県立中央病院

〒920-8530 金沢市鞍月東 2-1
<http://www.pref.ishikawa.jp/ipch/>

問い合わせ先 担当：総務課職員係

TEL (076)238-7854 FAX (076)238-5366
mail: syokuin@ipch.jp



平成 29 年度新病院完成予定（完成予想図）

メッセージ

当院は、北陸有数の入院数、県下随一の救急搬送患者受入数、他医療機関からの搬送患者、紹介患者も多く救急医療、高度先端医療を通して地域医療に貢献する病院です。病院見学は随時受け付けております。見学を希望される診療科の相談にも応じますので、是非一度お越しくください。

金沢市立病院

〒921-8105 金沢市平和町 3-7-3
http://kanazawa-municipal-hosp.com/rinsyou_kensyu/

問い合わせ先 担当：事務局

TEL (076)245-2600 FAX (076)245-2690
mail: byouin@city.kanazawa.lg.jp



メッセージ

よき臨床医の養成をテーマにしています。いわゆる“common disease”を多く体験することを通して、診療能力・手技技能・救急対応力が身に付きます。また、平成 26 年度よりナンシー大学病院（フランス）と相互派遣研修も開始しており、国際化に対応した人材を養成します。見学は随時受け付けていますので、是非一度訪ねてください。

浅ノ川総合病院

〒920-8621 金沢市小坂町中 83
<http://www.asanogawa-gh.or.jp>

問い合わせ先 担当：臨床研修担当

TEL (076)252-2101 FAX (076)252-2102
mail: info@asanogawa-gh.or.jp



メッセージ

当院は城下町金沢で 2000 床を展開する【医療法人社団浅ノ川】の基幹病院です。「元気のある病院、元気が出る病院」をスローガンに、地域密着型の高機能病院として急性期から回復期リハ・療養を含めた総合的な医療提供体制を整えています。循環器疾患に特化した同法人の金沢循環器病院での研修も可能であり、研修医がどの分野にも対応できる柔軟なプログラムを実現しています。ご見学は随時受け付けております。お気軽にお問い合わせ下さい。

城北病院

〒920-8616 金沢市京町 20-3
<http://johoku-hosp.com/>

問い合わせ先 担当：医師臨床研修担当

TEL (076)251-6111 FAX (076)252-5881
mail: j-ishikensyu@johoku.jp



メッセージ

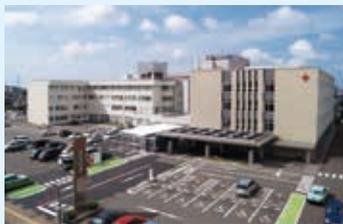
当院は保健・医療・介護の拠点として、いつでも誰でもかかれる病院、救急の受け入れを断らない病院を目指しています。また地域住民と一緒に作り上げる地域医療を特色としています。職員全体で育成する研修をモットーに、一人一人のペースに合った研修を心がけています。実習は数日から半日、また当直など様々な形で対応していますので、お気軽にお問い合わせください。

金沢赤十字病院

〒921-8162 金沢市三馬 2 丁目 251 番地
<http://www.kanazawa-rc-hosp.jp/>

問い合わせ先 担当：事務部企画課

TEL (076)242-9839 FAX (076)243-7552
mail: kikaku@kanazawa-rc-hosp.jp



メッセージ

当院は、金沢市南西部の住宅地にあり、地域に密着した医療を展開しています。開放病床を設置して近隣の診療所と連携し、勉強会や症例検討会などを開催しています。大病院と違った家庭的な雰囲気のある病院です。みなさまをチーム医療の一員として受け入れたいと考えております。病院見学は、随時個別に実施しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

地域医療機能推進機構 (JCHO) 金沢病院

〒920-8610 金沢市沖町ハ -15
<http://kanazawa.jcho.go.jp/>

問い合わせ先 担当：総務課

TEL (076)252-2200 FAX (076)253-5074
mail: main@kanazawa.jcho.go.jp



メッセージ

当院は、平成 26 年独立行政法人に移行し地域医療機能推進機構金沢病院と名称を変えました。「患者さんと地域住民を支える病院に」をスローガンに、地域に密着した中核病院として今後も患者さん及びその家族のための医療・介護を提供するチーム医療、初期医療の知識や技術を身につける研修を行っていきます。病院見学は随時受付けております。お気軽にお問い合わせください。

公立能登総合病院

〒926-0816 七尾市藤橋町ア部 6-4
<http://www.noto-hospital.jp>

問い合わせ先 担当：総務課

TEL (0767)52-8749 FAX (0767)52-9225
mail: syomu@noto-hospital.jp



メッセージ

病院見学は随時受付けてしております。学生さんの希望に沿った見学内容を組みたいと思いますので、ぜひ一度ご連絡いただければ幸いです。

恵寿総合病院

〒926-8605 七尾市富岡町 94
<http://www.keiju.co.jp>

問い合わせ先 担当：臨床研修センター

TEL (0767)52-3211 FAX (0767)52-3218
mail: kenshu@keiju.co.jp



メッセージ

県外有名病院での院外研修、恵寿ローレルクリニックでの家庭医療専門医による教育外来、救急専門医による ER 研修など、初期研修医の期待に応えるカリキュラムを用意しています。病院見学は随時受付中です。

小松市民病院

〒923-8560 小松市向本折町ホ 60
<http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp>

問い合わせ先 担当：総務課

TEL (0761)22-7111 FAX (0761)21-7155
mail: cbsomu@city.komatsu.lg.jp



メッセージ

小松市民病院では、研修医の方と一緒にプログラムを考え、マンツーマンの指導による、「実践参加型」の研修を行っています。南加賀医療圏の中核病院であり、救急患者、外来患者の多くの症例を経験でき、初期臨床研修に最適な病院と自負しています。見学及び実習の受け入れについては、随時、行っておりますので、一度お越しください。また、遠方からお越しの場合は、食事や宿泊施設を用意しております。見学を希望される方は、半日、一日、一週間コースなど用意しておりますので気軽にお問合せください。

公立松任石川 中央病院

〒924-8588 白山市倉光 3-8
<http://www.mattohp.jp/>

問い合わせ先 担当：管理部総務課

TEL (076)274-5972 FAX (076)274-5974
mail: mattohp@asagaotv.ne.jp



メッセージ

公立松任石川中央病院では、豊富な症例、プライマリーケアを経験でき、特に救急医療はその専門医がマンツーマンで指導します。また PET-CT、64 列 CT、LINAC などの高度医療機器も充実。Co-medical スタッフも含め病院全体で「よってたかって指導」します。体験型病院見学にてこの雰囲気を体感して下さい。

芳珠記念病院

〒923-1226 能美市緑が丘 11-71
<http://www.houju.or.jp>

問い合わせ先 担当：事務局総務課

TEL (0761)51-5551 FAX (0761)51-5557
mail: kotomi-i@houju.jp



メッセージ

当院は、南加賀地区の中核病院であり、ケアミックス型病院として地域医療から高度専門分野まで幅広い診療を行っています。その為、広い診療分野において偏りのない研修が行えます。病院見学は随時受け付けており、日帰りコースと宿泊コースのどちらかをお選びいただけます。宿泊コースでは、人間ドックの体験版として温泉に宿泊することができます。お気軽にお問合せ下さい。

能登北部での地域医療研修のご紹介



珠州市総合病院



市立輪島病院



公立穴水総合病院



公立宇出津総合病院

能登北部4病院（珠州市総合病院、市立輪島病院、公立穴水総合病院、公立宇出津総合病院）では、地域医療研修を行う初期臨床研修医の受入れを実施しています。近年は東京大学附属病院や聖マリアンナ医科大学病院など、県外の病院からも多くの研修医が能登北部を訪れ、研修に励んでいます。研修中は自身も地域の一員となり、能登北部が抱える地域医療の実態に触れながら、地域に根ざした医療を経験できます。

能登北部4病院クリニカルラウンド

能登北部での地域医療研修を充実したものとするため、地域医療研修に参加している研修医や若手医師を対象とした『能登北部4病院クリニカルラウンド』を能登北部総合診療強化研究会が企画しています。

研修は月に1回、能登北部4病院が持ち回りで開催しており、複数の疾患を持つ高齢者への対応など、地域医療に欠かせない診療能力を学ぶ勉強会を実施しています。また、能登北部で勤務する若手医師たちが集まることで、若手医師同士のネットワークを深めています。



能登北部4病院での地域医療研修受入れ状況

クリニカルラウンドの様子



テーマ：「能登の看取りについて」公立穴水総合病院



テーマ：「能登の在宅医療を考える」市立輪島病院



北陸産婦人科学会

Plus+One Project



平成28年5月21日(土)、北陸産婦人科学会と石川県産科医療体制検討会の共催により、北陸産婦人科学会「Plus One Project」を石川県医師会館にて開催しました。

石川県における産婦人科医の人数は現在、出生者千人あたりでは全国平均を上回っていますが、医師の高齢化等により、今後減少が予想されています。そのような中、「Plus One Project」は産婦人科のやりがいを発信し、一人でも多くの産婦人科医を石川県で養成するため、北陸産婦人科学会に合わせて開催したものです。

当日は、石川県をはじめ北陸の学生及び初期臨床研修医に対して産婦人科の魅力をPRするとともに、正常・異常分娩、胎児超音波、新生児の蘇生や腹腔鏡での縫合など様々な産婦人科実習体験を実施しました。





石川県地域医療支援センター

金沢市宝町13-1 金沢大学附属病院内 TEL.076-265-2991